

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項に基づく

教育に関する事務の点検及び評価  
(事業別評価シート)

平成 27 年 11 月

成田市教育委員会

# 目次

施策の基本目標	1
施策の体系	2
柱1 成田の個性を活かした国際交流・地域文化の発展を図る	3
個別事業1 日本語教育補助員配置事業（教育指導課）	4
〃 2 英語科研究開発事業（教育指導課）	5
〃 3 文化財保護啓発事業（生涯学習課）	6
〃 4 文化財等維持管理事業（生涯学習課）	7
〃 5 国際こども絵画交流展開催事業（生涯学習課）	8
〃 6 市史編さん事業（図書館）	9
〃 7 成田山門前町研究事業（図書館）	10
柱2 子どもも大人もともに学び育つ教育を推進する	12
個別事業8 小学校教育用コンピュータ整備事業（教育総務課）	14
〃 9 小学校大規模改造事業（学校施設課）	15
〃 10 大栄地区小中一体型校舎建設事業（学校施設課）	16
〃 11 教師用教科書指導書購入に係る経費（学務課）	17
〃 12 小中学校連携教育推進事業（学務課）	18
〃 13 個性を生かす教育推進事業（学務課）	19
〃 14 学校問題解決支援事業（学務課）	20
〃 15 小中学校就学援助費支給事業（学務課）	21
〃 16 学校図書館司書配置事業（教育指導課）	22
〃 17 学力調査事業（教育指導課）	23
〃 18 特色ある学校づくり事業（教育指導課）	24
〃 19 教育支援センター運営事業（教育指導課）	25
〃 20 教育センター運営事業（教育指導課）	26
〃 21 問題を抱える子ども等の自立支援事業（教育指導課）	27
〃 22 特別支援教育支援員配置事業（教育指導課）	28
〃 23 学校給食事業（学校給食センター）	29
〃 24 学校給食施設整備事業（学校給食センター）	30
〃 25 成人式開催事業（生涯学習課）	31
〃 26 青少年健全育成事業（生涯学習課）	32
〃 27 放課後子ども教室推進事業（生涯学習課）	33
柱3 生涯を通して学びスポーツができる環境づくりを推進する	35
個別事業28 生涯大学校管理運営事業（生涯学習課）	37
〃 29 明治大学・成田社会人大学運営事業（生涯学習課）	38
〃 30 国際文化会館管理運営事業（生涯学習課）	39
〃 31 文化芸術センター管理運営事業（生涯学習課）	40
〃 32 健康づくり運動「健康ちば21」推進事業（生涯スポーツ課）	41
〃 33 スポーツ団体育成事業（生涯スポーツ課）	42
〃 34 スポーツ広場等管理事業（生涯スポーツ課）	43
〃 35 運動公園等整備事業（生涯スポーツ課）	44
〃 36 公民館講座教室等開催事業（公民館）	45
〃 37 公民館施設維持管理事業（公民館）	46
〃 38 公民館大規模改修事業（公民館）	47
〃 39 図書館事業（図書館）	48

# 施策の基本目標

## 1. 学校教育の推進

教育を取り巻く環境が大きく変化しつつある中で、いつの時代においても子どもたちが未来への夢や希望を抱き、心身ともに健やかに成長し、多様な可能性を伸ばしていく教育環境を築くことが重要です。

このため学校教育においては、平成 18 年 12 月の教育基本法の改正及び、平成 19 年 6 月の学校教育法の改正に基づき、子どもたちの「確かな学力」や「豊かな心」などの「生きる力」の育成を目指して、それぞれの学校や地域での創意工夫を活かした特色ある教育活動を展開します。

## 2. 生涯学習の推進

国際化や情報化が進む 21 世紀は、「こころ」と「こころ」を結ぶコミュニケーションづくりを充実させ、「人のつながり」を大切にした市民生活が重要となります。

生涯学習の推進にあたっては、世界の人々に対して誇れるような個性と広い視野を備え、互いに助け合い共に学びながら、社会情勢の変化に対応し、自立して生きていける「国際市民」を育むことを目指し、各種施策の推進に努めます。

基本目標を実現するために、次の三つの柱を基本施策とし、個別事業を推進するうえでの指標とします。

## 施策の体系

### 柱1 成田の個性を活かした国際交流・地域文化の発展を図る

成田の国際性や伝統文化といった、成田の個性を活かした教育を推進します。また教育を通じた各種交流を推進します。

### 柱2 子どもも大人もともに学び育つ教育を推進する

学校・家庭・地域が一体となった教育を推進し、子どもから大人までともに学び、成長していく教育を推進します。また、自ら学び考え行動するための「確かな学力」と「豊かな心」を育むための教育を推進します。

### 柱3 生涯を通して学びスポーツができる環境づくりを推進する

市民が生涯を通して学び、スポーツ活動を行える環境づくりや学習成果が発表でき、地域の活性化につながる環境づくりを推進します。

柱1 成田の個性を活かした国際交流・地域文化の発展を図る

施策の方向

- ・ 英語教育及び国際理解教育の推進
- ・ 市の資源を活用した多様な方法による国際交流の推進
- ・ 海外帰国児童生徒や在住外国人に対する教育と交流の推進
- ・ 歴史や伝統文化に学ぶ
- ・ 文化財や伝統文化の保存継承

総合評価	A 目標を達成できた、または目標達成に向けて順調に進んでいる
評価所見	<p>「国際都市成田」だからこそできる、質の高い英語教育や異文化理解への国際性を深める教育が受けられることは、子どもたちにとって大変有意義なことである。また、英語教育の適切な学習効果の把握に努め、小学校での成果を中学校につなげていく小中連携の取組など、さらなる国際理解教育の充実を推進していただきたい。</p> <p>増加していく外国人児童生徒に対し、日本語習得や学校生活への適応するための支援は重要なことである。引き続き適切な対応に努める必要がある。</p> <p>国際交流については、人材を上手に活用し、本市においてもボランティアの学習と人材育成を望みたい。</p> <p>歴史や伝統文化の分野については、地道な積み重ねの事業であり、文化継承の重要性を広く市民に周知することも必要である。歴史や文化は市民で共有してこそ財産であり、今後も市民の文化財に対する意識高揚を図っていただきたい。</p> <p>成田の個性を活かした国際交流・地域文化の発展を図るためには、いずれも必要な事業である。その質を上げるとともに、今までの形にこだわらずチャレンジしていただきたい。</p> <p>全体としては、昨年よりも前進している事業が多いと感じるが、その一方で多方面からの意見に耳を傾ける必要も感じる。</p>

評価指標：A 目標を達成できた、または目標達成に向けて順調に進んでいる

B 概ね目標を達成できた、または目標達成に向けて進んでいる

C 目標どおり進んでいるが、一部達成できなかった

D 目標の達成ができなかった、または目標の達成は困難である

個別事業 1

事業名	日本語教育補助員配置事業		担当課	教育指導課
事業費	25 年度決算額 (参考)	26 年度決算額		27 年度予算額 (参考)
	10,427 千円	10,739 千円		12,928 千円
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>本市には、外国人児童生徒が 141 人（市内小中学校通学児童生徒数）いる。そのうち日本語指導が必要な児童生徒は 74 人となっている。このような日本語が十分話せない帰国・外国人児童生徒が日本語を習得するため、また、学校生活に適應できるように支援するため 14 人の日本語教育補助員を配置した。</p> <p><b>【配置校】</b></p> <p>◎小学校・・・加良部小、玉造小、平成小、成田小、川上小、橋賀台小、美郷台小 新山小、三里塚小、桜田小、向台小、前林小</p> <p>◎中学校・・・成田中、吾妻中、遠山中、西中、大栄中、公津の杜中</p> <p>日本語教育補助員の具体的な取組として、児童生徒に対して取り出での日本語指導や授業に入り込んでの指導、保護者に対しての通知文の翻訳等を行った。</p>			
評価指標①	日本語教育補助員配置人数	14 人（H25 年度 11 人）		
評価指標②	補助員の指導児童生徒数	74 人（H25 年度 66 人）		
評価結果及び今後の方向性	<p>補助員の必要な外国人児童生徒が増える中、日本語教育補助員の必要性は高く、多種の言語に対応していく必要がある。また、学校現場においては、個別の指導対応を求められ、適切な補助員の配置をすることが困難なケースがあると考えられる。</p> <p>様々な課題があると思われるが、市として学校からの要望に応えられる体制を構築するとともに、必要な人材の育成及び確保に引き続き努めていただきたい。</p>			

個別事業 2

事業名	英語科研究開発事業	担当課	教育指導課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額	
	169,454千円	168,115千円	
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>本市には日本の表玄関「成田空港」があり、国際理解教育の推進が求められている。そのため外国人指導助手を小中学校に配置し、教育課程特例校として、小学校は1年から6年に英語科を設置して英語の授業を実施し、中学校は授業時数を0.5時間拡充して児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成及び国際理解教育の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校外国人英語講師配置 31人</li> <li>・ 中学校外国人英語講師配置 17人</li> <li>・ 小中英語教育検討委員会 年4回</li> <li>・ 作業部会の開催 年5回</li> </ul> <p>小学校英語科標準年間指導計画作成委員会の開催 年5回</p>		
評価指標①	英語講師配置学校数	35校 (H25年度 39校)	
評価指標②	英語講師配置人数	48人 (H25年度 51人)	
評価指標③	受講した児童生徒数	10,696人 (H25年度 10,517人)	
評価結果及び今後の方向性	<p>本市は国際都市として、英語教育、国際理解教育を推進することは重要な事業であり、各学校に外国人英語講師を配置されていることは大変素晴らしく、市独自の効果測定やアンケート結果のデータにもあるように英語に関する関心、意欲は全国的にみても高い結果がみられ一定の評価ができる。</p> <p>ただし、児童生徒が英語に積極的に取り組み、コミュニケーション能力や関心が高いことは良いが、それが学力の向上につながっているのか。「読む」「書く」ことなどの相対的な学力に関することも、他市や県レベルでの比較などを行い、さらなる検証をし、さらなる取り組みに期待したい。</p> <p>また、「聞く」「話す」中心の小学校英語は向上しているので、「読む」「書く」が重視される中学校英語へのスムーズな移行と学力向上への取り組みにも期待したい。</p>		

個別事業 3

事業名	文化財保護啓発事業		担当課	生涯学習課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額		27年度予算額 (参考)
	2,314千円	2,047千円		2,497千円
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>文化財を広く市民に知っていただくために、説明板等の設置、修復他、『成田市の文化財』を発行するとともに、収集している文化財や関係資料について下総歴史民俗資料館等に展示して、郷土の歴史についての理解を深めている。</p> <p>更に、市内に点在する文化財の周知・啓発を進めるため、特に重要な考古資料については、展示公開できるよう修復・復元を行った。</p> <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○『成田市の文化財』第46集を刊行した。</li> <li>○史跡めぐり3回、歴史講演会2回 計5回開催した。</li> <li>○雉ヶ原遺跡縄文土器深鉢、囲護台遺跡円面硯、下方内野南遺跡五獣鏡の修復を行った。</li> </ul>			
評価指標①	啓発用印刷物発行数	1冊 (H25年度 1冊)		
評価指標②	史跡めぐり・講演会参加者数	310人 (H25年度 243人)		
評価指標③	説明板等設置数	2箇所 (H25年度 16箇所)		
評価指標④	文化財等修復数	3件 (H25年度 3件)		
評価結果及び今後の方向性	<p>本市には、貴重な多くの文化財が存在しているが、その存在や価値を多くの市民に知ってもらうさらなる取組が必要である。また、下総歴史民俗資料館には多くの貴重な文化財が展示されているが、市民に対してもっと周知することが大切である。</p> <p>また、文化財保存施設の整備について、閉校となった下総地区の学校跡地に整備する検討をされたい。</p> <p>史跡めぐりや歴史講演会の開催は良い事業であるが、大人向きのものが多い。小中学生あるいは高校生への啓発も考え、若い世代が興味を持てる内容を検討してみてはいかかが。</p>			



個別事業 4

事業名	文化財等維持管理事業	担当課	生涯学習課
事業費	25 年度決算額 (参考)	26 年度決算額	
	6,462 千円	8,338 千円	
27 年度予算額 (参考)	17,010 千円		
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>文化財保護に対する関心や理解を深めるため、市内数箇所の文化財倉庫において文化財資料・埋蔵文化財等の図面・写真類を良好な状態で保管している。</p> <p>また、指定文化財の保護のため、修理や管理に対する補助等を行った。</p> <p>伊能歌舞伎については、昭和 55 年に県指定文化財の指定解除後、平成 11 年に復活上演、旧大栄町がまちおこし事業の一環として育成を行った経緯がある。現在は成田市指定の無形民俗文化財となっており基金を活用し支援を行った。</p> <p>【平成 26 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○指定文化財管理補助金 27 団体</li> <li>○伊能歌舞伎公演 春と秋の 2 開催</li> </ul>		
評価指標①	補助金交付	27 団体 1,898 千円 (H25 年度 27 団体 1,898 千円)	
評価指標②	補助金交付	伊能歌舞伎保存会 1,355 千円 (H25 年度 1,355 千円)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>文化財の維持管理については、行政からの支援は必要なものであり、文化財の維持を行い、それを活用する方策が重要である。また、文化財保護に対する市民へのさらなる周知や啓発を行い、理解や関心を深めたい。</p> <p>大栄地区の伊能歌舞伎については、貴重な無形文化財として関心は高いと思われる。次代に継承することが重要であり、今後も保存に向け、継続した支援を行っていただきたい。</p>		

個別事業 5

事業名	国際こども絵画交流展開催事業		担当課	生涯学習課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額		27年度予算額 (参考)
	2,500千円	2,500千円		2,500千円
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>広く世界各地の“こどもたち”と、成田市内の“こどもたち”の絵画作品を紹介することにより、21世紀を担うこどもたちの夢と創造力を育み、絵画を通じてお互いの生活や文化について理解を深め合うとともに、市民の芸術文化の振興と発展に寄与することを目的としている。</p> <p>成田山新勝寺大本堂第二講堂を会場に、毎年10～11月に開催した。また、交流展終了後には、成田市役所等にて巡回展示を実施した。</p> <p>開催期間：平成26年10月25日（土）～11月3日（月）</p> <p>応募作品数：市内小中学校33校から1,077点、海外16ヶ国から655点</p> <p>来場者数：会期10日で延べ3,372人</p>			
評価指標①	延べ開催日数		10日（H25年度 10日）	
評価指標②	来場者数		3,372人（H25年度 3,156人）	
評価指標③	作品点数		1,732点（H25年度 1,465点）	
評価結果及び 今後の方向性	<p>「国際都市成田」らしい事業であり、子どもたちの夢と想像力を育み、世界に目を向けるきっかけとなる事業である。さらには世界各国の子どもたちの絵画作品を通じて、お互いの生活や文化について理解を深めることもできる。</p> <p>作品を英語で標記し、展示場所や参加賞等も創意工夫がされており、本市の特色ある事業として今後も継続し、さらなる展開に期待したい。</p> <p>なお、もっと広く市民に知ってもらい、多くの人々に鑑賞してもらうように市民への周知を引き続き行うとともに、作品の応募を増やすためにも、学校関係者への周知を行うことも必要である。</p>			

個別事業 6

事業名	市史編さん事業		担当課	図書館
事業費	25 年度決算額 (参考)	26 年度決算額		27 年度予算額 (参考)
	7,312 千円	6,527 千円		6,815 千円
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>市域に関する歴史的資料の収集・保存(管理)を図ること、また、調査・研究等の過程で得られた資料を共有の財産として広く活用・提供することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>『成田市史研究』第 39 号の発行 A5 判・140 頁、発行部数 700 部</li> <li>市史資料のデジタル化 成田地区の村絵図資料（江戸時代～明治初期）10 点</li> <li>市史資料の展示 『写真は語る - 長谷川朋慶氏が写した戦時中の成田町 - 』 協力：長谷川興成氏 『蓬莱閣ホテルと石川家(海老屋)』 協力・資料提供：石川隆氏、石丸智氏、三枝浩氏、成田山霊光館</li> <li>マイクロフィルム撮影 滑河尋常高等小学校の学校日誌 15 冊（明治 41 年～昭和 9 年）</li> <li>聞き取り調査 可瀬力元下総町長（成田国際空港開港や市町村合併などについて）</li> </ol>			
評価指標①	市史研究冊子の作成		1 冊子（H25 年度 1 冊子）	
評価指標②	市史研究配布・市史頒布数		440 冊・162 冊（H25 年度 430 冊・98 冊）	
評価結果及び 今後の方向性	<p>成田の歴史を記録し、次世代に伝承していく上で重要な事業である。多くの市民が関心を抱くという性質のものではないが、価値ある重要な資料を収集保存し、調査・研究の成果を広く市民に活用していただく取組を続けていただきたい。また、多くの方に活用していただくためにも、内容を世代別にするなど小中学生にも理解できるような内容にし、普及版の作成を検討していただきたい。実現し、小中学校の教材として活用されることを期待する。</p> <p>平成 26 年度に実施した滑河尋常高等小学校の学校日誌のマイクロ撮影の貴重な歴史的資料の保存に努めていることは、郷土の歴史を知ってもらうためにも大切である。</p>			

個別事業 7

事業名	成田山門前町研究事業	担当課	図書館
事業費	25 年度決算額 (参考)	26 年度決算額	
	5,600 千円	5,000 千円	
27 年度予算額 (参考)	5,033 千円		
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>成田山門前町の歩みや移り変わりについて、これまでの資料を最大限に活用しながら、地域に伝わる様々な行事・生活文化等を記録に残すことを目的に事業を実施する。</p> <p>聞き取り調査という手法で記録し、既存の資料の確認・検証、新たな資料の発掘などにより考察、既刊刊行物の補完なども行う。</p> <p>また、本事業は、地元成田への関心を高め、観光や将来のまちづくり等への活用・貢献を目指すものでもある。</p> <p>1. 委託先 慶應義塾大学 鈴木正崇研究室（専門：民俗・歴史・社会学等）</p> <p>2. 本調査 年中行事（女人講・祇園祭・新勝寺関連）を中心とした活動の参与観察及び聞き取り調査</p> <p>3. 調査概要等の報告</p> <p>① 『成田市史研究』第 39 号に掲載 「門前町の記憶をたどる - 成田山門前町調査研究事業の特徴と方向性 - 」</p> <p>② 『広報なりた』に掲載（8 月 15 日号から月 1 回連載） 「門前町に生きる - 過去・現在・未来 - 」</p> <p>③ 市史講座において中間報告を兼ねた講演会の実施 演題：「 門前町に生きる - 過去・現在・未来 - 」</p> <p>【調査計画】 平成 25 年度 予備調査・本調査 平成 26 年度 本調査 平成 27 年度 本調査 平成 28 年度 報告書刊行（補足調査）予定</p>		
評価指標①	調査概要報告（報告書・市史研究・広報等）	3 冊（H25 年度 2 冊）	
評価指標②	講演会等の開催	1 回（H25 年度 0 回）	
評価結果及び今後の方向性	<p>成田山門前町に伝わる身近な行事や生活文化など、様々な事柄を次世代に継承するための重要な事業であり、平成 28 年度の刊行が待たれる。また、「広報なりた」での連載や講演会の実施により、調査の成果の一部を中間報告として実施した取り組みは評価できる。</p> <p>このような、特定地区・人物・逸話等に焦点を当てた研究企画は継続されるよう望む。</p>		

その他の事業

- ・ 下総歴史民俗資料館管理運営事業（生涯学習課）
- ・ 三里塚御料牧場記念館管理運営事業（生涯学習課）
- ・ 埋蔵文化財調査事業（生涯学習課）

ほか

## 柱2 子どもも大人もともに学び育つ教育を推進する

### 施策の方向

- ・ 学校・家庭・地域が一体となった教育体制の充実
- ・ 各小中学校の特性を活かした教育の充実
- ・ 青少年の健全育成
- ・ 義務教育における教育内容の充実
- ・ 教育施設の改善と地域への開放
- ・ 義務教育における教育環境の整備
- ・ 健やかな心と体づくり
- ・ 学校規模の適正化及び通学区域の弾力化
- ・ 幼児教育の充実
- ・ 高等学校や大学などとの連携強化

総合評価	A 目標を達成できた、または目標達成に向けて順調に進んでいる
評価所見	<p>下総みどり学園が平成26年度より開校し、本市で初めての小中一貫教育校として成果を上げている中、この成果を他の中学校区においても取り入れられるような取組を今後期待するとともに、大栄地区の小中学校統合と大栄中学校との小中一貫教育校の開校に向けた調査研究を引き続き行っていただきたい。</p> <p>大栄地区の統合小学校の建設や、学校大規模改造事業による施設整備についても、良好な学習環境の実現と小中学校の効率的な運営を図るため、その地域にふさわしい施設整備と計画的な施設整備を実施されたい。</p> <p>子どもたちを取り巻く環境が変化し、人間関係の悩みやいじめ、不登校など、複雑多様化している児童生徒の悩みに対して、できるだけ早く問題を解決することが重要である。子どもたちを精神的にサポートしたり、学校教育現場の問題を解決したりする事業や教育相談体制のより一層の充実が求められる。</p> <p>学力の向上に向けた取組として、児童生徒一人一人に対応したきめ細かな指導や、学習内容の理解状況を客観的に把握するとともに、それに対応できる教員の資質向上が期待される。各学校において特色ある学校づくりを推進するとともに、「確かな学力」と「豊かな心」を育む教育を推進されたい。</p>

さらに、学力向上は家庭環境に影響される場合もあるので、保護者に対する社会教育、家庭教育も重要である。地域の教育力を高める効果的な事業の推進をお願いしたい。

今、学びは変化し、学び方、学ぶ場所、そしてその評価も多岐に渡る。学習環境も多面的に考え整備しなければならない。「今まで、こうであった」という所から「これから、こうなる」「これから、こうあるべき」というようにシフトする施策でありたい。

成田市だからこそ、積極的に革新的な施策の展開を期待し、これからは学びの環境だけでなく、学びの質を確保し、どう効果的に活用していくべきか考え、常に前への気持ちで取り組んでいただきたい。

- 評価指標：A 目標を達成できた、または目標達成に向けて順調に進んでいる  
B 概ね目標を達成できた、または目標達成に向けて進んでいる  
C 目標どおり進んでいるが、一部達成できなかった  
D 目標の達成ができなかった、または目標の達成は困難である

個別事業 8

事業名	小学校教育用コンピュータ整備事業		担当課	教育総務課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額		27年度予算額 (参考)
	75,079千円	69,732千円		73,734千円
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>コンピュータに慣れ親しませることを基本として、情報化技術の活用能力を育成するとともに、教科の指導においても効果的な教育を行うために、小学校のコンピュータ教室に、教師用及び児童用コンピュータ、校内サーバをはじめ、プリンター、スキャナー、実物投影機、プロジェクター、デジタルカメラ等の周辺機器、授業支援ソフトウェア及びOAデスク・OAチェア等の整備を行う。各学校のコンピュータの整備台数等は、最も児童数の多い学年を基準として整備している。(各校最大39台)</p> <p>コンピュータ等の調達は、すべてリース契約(59ヶ月)とし、事業費の年度間の均一化を図っている。なお、契約は成田地区、下総地区、大栄地区、新設校のグループ毎に、年次を分けて行っている。</p> <p>【平成26年度】</p> <p>成田地区16小学校(成田小学校・遠山小学校・三里塚小学校・久住小学校・豊住小学校・八生小学校・公津小学校・向台小学校・加良部小学校・橋賀台小学校・新山小学校・吾妻小学校・中台小学校・神宮寺小学校・平成小学校・本城小学校)コンピュータ教室のコンピュータ及び周辺機器一式の入替および、新設校の下総みどり学園(下総小学校)への整備を行った。</p> <p>また、平成26年度は、本格的にタブレット等を導入するまでの移行期として、タッチパネル形式のディスプレイを導入し、「ことばの教室」が設置されている小学校4校(成田小学校、中台小学校、本城小学校、下総みどり学園)にタブレットの試験機を各1台導入した。</p> <p>なお、統廃合により閉校した小学校があったため、H25年度に比べてパソコンの総台数は減っている。</p>			
評価指標①	小学校コンピュータ教室のパソコン台数	855台(H25年度 926台)		
評価指標②	小学校コンピュータ教室のパソコン1台あたりの児童数	8.5人/台(H25年度 7.7人/台)		
評価結果及び今後の方向性	<p>技術が急速に発展し、目まぐるしく社会が変化する中で、小学校で身近にコンピュータに慣れ親しみ、情報化技術を習得できることは子どもたちにとって、大切なことだと考える。また、タブレットを導入するまでの移行期として、タッチパネル形式のディスプレイを導入したことは評価できる。</p> <p>ICT時代に対応した教育環境の整備は不可欠であり、時代の変化に対応できる環境整備に努めていただきたい。</p> <p>また、教師においてもコンピュータについてのスキルを身につけることはもちろんではあるが、専門性のある支援員の配置もあわせて検討する必要がある。</p>			



個別事業 9

事業名	小学校大規模改造事業	担当課	学校施設課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額	
	5,171千円	652,675千円	
27年度予算額 (参考)	954,235千円		
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>教育環境の改善を図るとともに、学校施設の耐久性を確保するために、建築後 30 年を目処に老朽化した学校施設の大規模な改修を行う。</p> <p>【平成 26 年度】</p> <p>昨年度から継続して仮設校舎を借り上げるとともに実施設計を完了させ、吾妻小学校西棟改修工事を実施した。(なお、引き続き平成 27 年度は東棟の改修工事を実施)</p> <p>また、平成 27 年度から実施予定の新山小学校改修工事の実施設計に着手した。</p>		
評価指標	設計件数	1 件 (H25 年度 0 件)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>子どもたちに安全な教育環境を提供することは、非常に重要な事であり、教育環境の改善と学校施設の耐久性を確保するため、計画的に適切な整備を実施されたい。</p> <p>また、教育活動に支障がでないよう、大規模改修工事を進めているとのことなので、引き続きそのような対応で進めていただきたい。</p> <p>小学校は地域住民の一番身近な公共財産であるとともに、学校施設は避難所としての機能も有していることから、安全で適切な整備を実施されたい。</p>		

個別事業 10

事業名	大栄地区小中一体型校舎建設事業	担当課	学校施設課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額	
	千円	51,162千円	27年度予算額 (参考) 82,409千円
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>地区全域で児童数が減少傾向にある大栄地区の学校規模適正化を図るため地区内小学校5校を統合するとともに中学校との小中一体型校舎を建設する。</p> <p>【平成26年度】</p> <p>小中一体型校舎建設の基本設計及び測量調査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開校年度 平成34年度</li> <li>・統合校舎 普通教室22教室、特別支援教室4教室</li> <li>・開校時の見込み児童生徒数 約640人</li> <li>・整備スケジュール 平成27～28年度 実施設計、平成28～33年度 施設整備</li> </ul>		
評価指標	事業進捗率	1% (H25年度 0%)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>全国的に注目されている小中一体型の一貫校の建設計画であるので、平成26年度に開校した下総みどり学園のような、環境が整った安心安全な校舎と、大栄地区の特徴を踏まえた教育環境づくりに配慮した設計を行い、事業を展開していただきたい。</p> <p>また、物的環境が子どもたちに与える影響が大きいことも考え、子どもたちの目線に立った事業を進めていただきたい。</p>		

個別事業 1 1

事業名	教師用教科書指導書購入に係る経費	担当課	学務課
事業費	25 年度決算額 (参考)	26 年度決算額	
	2,416 千円	181 千円	
27 年度予算額 (参考)	45,220 千円		
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>教員に教科書指導書を配布し、教材研究の充実及び資質・指導力の向上を図る。教科書指導書は 4 年に一度の教科書改訂に合わせて全て買い替える。改訂がない年度は小学校の学級増や中学校の教科担任数の変更等に伴う不足分を購入する。また、県の講師分は毎年度その配置に応じて必要な分を購入する。</p> <p>【平成 26 年度】</p> <p>26 年度は小学校、中学校共に教科書の改訂はないため不足分のみ購入であった。小学校は、学級増等で不足した分を、中学校は、講師用の教科書を購入した。また、小学校においては、学校統廃合に伴い、廃校された学校に配置されていた教科書指導書を不足している学校に移動したため、計画よりも少ない冊数の購入で済んだ。</p> <p>さらに、27 年度に指導者用デジタル教科書の導入を図るため、試験的に小学校 3 校で社会 5 年のデジタル教科書を配置した。</p>		
評価指標①	教科書配付校数	21 校 (H25 年度 28 校)	
評価指標②	配付延べ冊数	247 冊 (H25 年度 575 冊)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>児童生徒の学習力の向上につなげるには、教員の指導力の影響は大きい。教員にとって教科書指導書は、教材研究及び資質・指導力の向上を図る上でも大切なものなので、事業のさらなる充実を図り有効に活用されたい。</p> <p>平成 26 年度には成田小、吾妻小、公津の杜小に 5 年生の社会のデジタル教科書を導入したとのことなので、各学校にも配置を進めていただきたい。また、デジタル教科書を使用する教員の指導技術においても向上を図っていただきたい。</p>		

個別事業 1 2

事業名	小中学校連携教育推進事業		担当課	学務課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額		27年度予算額 (参考)
	246千円	44千円		165千円
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>平成 26 年度に開校した下総みどり学園をモデル校として小中一貫教育の研究を推進し、その成果を本市の小中連携教育へ広げていくことを目的とした事業である。平成 25 年度までは下総地区において「小中連携教育推進委員会」を設立し、小中学校の連携を強化した小中一貫教育の在り方を調査研究してきた。</p> <p>26 年度については、より効果的な小中一貫教育の研究を行うために、小中一貫教育全国サミットに参加するとともに、下総みどり学園との連携を図った。</p> <p>また、大栄地区において「小学校統合推進委員会」が設立され、大栄統合小学校中学校においても小中一貫教育を推進していくことが確認されたことから、推進委員による下総みどり学園の視察が行われた。</p>			
評価指標①	推進委員会開催数	0 回 (H25 年度 7 回)		
評価指標②	説明会参加人数	0 人 (H25 年度 574 人)		
評価結果及び 今後の方向性	<p>下総みどり学園が開校して1年が経過し、中学生の生活面では下級生に対する優しさが増し、問題行動がなくなるなど、さらに学習面では 5、6 年生において学習意欲の向上が見られるなど、部活動、委員会活動、文化祭などの学校行事においても、小中一貫教育の良さが表れている。課題においては、他校に比べ教員の負担が多いとのことだが、負担が続けば継続することも困難になってくる。さらなる検証と小中一貫教育の方向性も含め、教育委員会の継続的な支援をお願いしたい。</p> <p>また、本市での小中連携教育推進のために、下総みどり学園における教育効果と成果を参考にし、他の中学校区においても取組を行っていただきたい。</p>			

個別事業 1 3

事業名	個性を生かす教育推進事業	担当課	学務課
事業費	25 年度決算額 (参考)	26 年度決算額	
	162,735 千円	179,608 千円	
27 年度予算額 (参考)	183,039 千円		
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>一人一人の児童生徒の個性の伸長を目指したきめ細かな指導を行うことをねらいとして、教員免許状を有する少人数学習推進教員を、31 人以上の学級を多く有する小中学校に配置し、きめ細かな学習指導・生活指導を実施している。また、児童生徒の心身の健康の保持増進のため、養護教諭の免許状を有する健康推進教員を児童生徒の多い学校を中心に配置し、心身両面からの支援を実施している。</p> <p>(少人数学習推進教員 小学校 22 人 中学校 19 人) (健康推進教員 小学校 6 人 中学校 6 人)</p>		
評価指標①	勤務日数	220 日 (H25 年度 222 日)	
評価指標②	授業受け持ち学級数	210 学級 (H25 年度 201 学級)	
評価指標③	派遣校数	24 校 (H25 年度 23 校)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>新任の少人数学習推進教員の研修、教科担任との授業前の打合せもしっかりと行われているとのことで、推進教員も自分の役割を自覚し、自信をもって授業に臨んでいることと思われる。</p> <p>少人数学習推進教員を配置したことにより、児童生徒の学習面で一人一人に対応したきめ細かな指導や、健康推進教員は養護教諭の補助として、児童生徒の「心の居場所」としての保健室の機能を高め、心身両面での支援成果が期待される。</p> <p>担任が推進教員を効果的に活用できるよう、教員の指導力の向上や体制づくりを行い、さらなる充実に取り組んでいきたい。</p>		

個別事業 1 4

事業名	学校問題解決支援事業	担当課	学務課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額	
	389千円	493千円	
27年度予算額 (参考)	798千円		
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>学校問題解決支援チームは、弁護士、精神科医、臨床心理士、市民代表、交通防犯課、子育て支援課並びに教育委員会事務局で構成している。</p> <p>年 12 回の定例会議を実施し、各学校の課題について詳細に分析し、学校だけでは解決困難な問題の解決を図った。</p>		
評価指標①	カウンセラー等の活動延べ時間	111 時間 (H25 年度 75.5 時間)	
評価指標②	相談案件数	25 件 (H25 年度 15 件)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>子ども、保護者、地域社会、さらには教員も多くの問題を抱えている中、支援チームによる法的、医学的、発達心理的見地からのアドバイスは重要な役割を果たしている。</p> <p>学校現場では対応が困難なケースも増えていることから、深刻な問題をさらに深刻にしないためにも、速やかに解決し現場の負担を軽減させるためにも必要な事業であるので、今後とも積極的な支援を図られたい。</p>		

個別事業 1 5

事業名	小中学校就学援助費支給事業	担当課	学務課
事業費	25 年度決算額 (参考)	26 年度決算額	
	56, 939 千円	61, 423 千円	
27 年度予算額 (参考)	69, 541 千円		
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>経済的理由により就学が困難な児童生徒の保護者に就学援助費（学用品費・新入学児童生徒学用品費・修学旅行費・学校給食費等）を支給した。平成 26 年度から P T A 会費と生徒会費を支給対象に加え、クラブ活動費を増額し、その他の費目についても消費税増税に伴い増額した。</p> <p>認定基準は、申請世帯の所得が生活保護法で生活に必要なと認めた額の 1.3 倍に給食費の実費相当額を加算した需要額を下回るものである。ただし、生活保護の基準は平成 25 年改正前の基準としている。</p> <p>(例 1) 親 1 人、小学生 1 人の 2 人世帯の需要額約 166 万円 世帯の収入が 1 人の給与のみで給与収入が 263 万円の場合、給与所得控除後の金額は 165 万円となるので世帯の収入要件は概ね該当</p> <p>(例 2) 親 1 人、小学生 1 人、中学生 1 人の 3 人世帯の需要額約 239 万円 世帯の収入が 1 人の給与のみで給与収入が 366 万円の場合、給与所得控除後の金額は 238 万円となるので世帯の収入要件は概ね該当</p> <p>※上記の概算事例額は持ち家の場合であり、借家の場合は家賃に応じて約 75 万円までの加算あり。</p>		
評価指標①	申請件数	826 件 (H25 年度 841 件)	
評価指標②	認定児童生徒数	772 人 (H25 年度 790 人)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>経済的な理由により就学が困難な児童生徒への援助は、経済格差が教育面での格差にならないためにも重要な事業である。</p> <p>平成 26 年度からは P T A 会費と生徒会費を加え、さらにクラブ活動費の増額を行ったことは評価したい。</p> <p>ただし、あくまでも親の養育義務の補助であって、公平性の観点からも適正な運用や、厳正な審査を実施されたい。</p>		

個別事業 16

事業名	学校図書館司書配置事業		担当課	教育指導課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額		27年度予算額 (参考)
	45,371千円	44,799千円		46,548千円
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>学校図書館の利活用の促進を図り、豊かな人間性を育むため、27人の学校図書館司書を小中学校全校に配置し、図書館の環境整備、蔵書管理、読み聞かせ等の読書活動を推進した。</p> <p>週5日勤務 8人 週4日勤務 6人 週3日勤務 13人 合計27人</p>			
評価指標①	配置校数	35校 (H25年度 39校)		
評価指標②	雇用人数	27人 (H25年度 31人)		
評価指標③	児童一人あたりの年間貸出冊数	58冊 (H25年度 58冊)		
評価指標④	生徒一人あたりの年間貸出冊数	21冊 (H25年度 19冊)		
評価結果及び今後の方向性	<p>児童生徒の読書量の増加や学力向上に成果が見えてきている。本を読む楽しさを教え、魅力ある図書室づくりに果たす司書の役割は大変大きい。また、全校に司書を配置したことについても評価したい。さらなる勤務日数の拡大に期待したい。</p> <p>司書の能力を十分に活用するためにも、校長の果たす役割と教育委員会の理解と支援が必要である。さらに教員と連携することで、より効果的に事業の充実を図りたい。</p>			



個別事業 17

事業名	学力調査事業		担当課	教育指導課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額		27年度予算額 (参考)
	9,145千円	9,968千円		10,092千円
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>児童生徒が、自分自身の学習状況を理解するための一助とするとともに、教員が児童生徒の学力の共通的な傾向や特質を捉えて、教育課程の編成及び指導計画に生かすとともに、指導方法の工夫改善を図ることを目的として行っている。</p> <p>学力・学習状況調査は、小学生（1～6年生）7,236人、中学生（1～2年生）2,214人が検査に参加して実施した。</p> <p>市内小中学校の分析結果と各学校への指導や教育施策の改善等について、各校へ通知するとともに、教育指導課ホームページを活用し、広く市民に対して成田市児童生徒全体の学力・学習状況の傾向を知らせた。</p> <p>各学校では、分析結果を受けて、自校の学力向上の具体的な改善策を検討し、次年度に生かしている。</p>			
評価指標①	参加児童生徒数	9,450人（H25年度 9,238人）		
評価指標②	児童生徒の学力把握（実施校数）	35校（H25年度 39校）		
評価結果及び 今後の方向性	<p>児童生徒一人一人の学力や学習状況を把握し、指導方法の工夫改善を行うためには必要な事業であり、毎年継続して実施する意義はある。教員一人一人が、結果を分析し、学習指導を振り返ることにより、児童生徒の学力向上に向けた方策を検討する上で、この事業を十分に活用していただきたい。</p> <p>なお、採点を教員が行うことで、そこから気付くことは今後の授業に活かされると思うので、自校採点を検討できないものか。</p> <p>学力調査の結果を家庭、地域に公表することは、学校と保護者、地域が情報を共有することにより、家庭における学習意欲の向上を図る上でも必要なことである。</p> <p>各学校においても分析結果を受けて、具体的な改善策を検討しているとのことだが、できるだけ早い時期に具体的な改善策を実行に移すとともに、児童生徒や保護者にも徹底していただきたい。</p> <p>必要な事業であることは間違いないが一層効果的な活用を図るために、事業内容の改善に期待したい。</p>			

個別事業 18

事業名	特色ある学校づくり事業	担当課	教育指導課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額	
	13,633千円	12,415千円	
27年度予算額 (参考)	12,761千円		
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>地域や学校の実態に応じ、校長のリーダーシップを基に各学校の自主性・自律性を高め、特色ある学校づくりを進めるための事業である。</p> <p>各学校では、保護者の願いや地域の要望を踏まえつつ、調査研究計画を作成している。それに基づいて「学校教育目標の具現化や児童生徒の生きる力を育むこと」などをねらいとして、校長会に研究委託を行った。</p> <p>【主な事業】「研修の充実」「確かな学力の定着」「地域交流活動の充実」「学校環境の整備」「特別活動の充実」「国際理解教育」など</p> <p>【活動内容】講師を招聘した研修、児童生徒の体験活動や交流活動等</p>		
評価指標①	学校数	35校 (H25年度 39校)	
評価指標②	事業数	164事業 (H25年度 182事業)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>各学校において、魅力、特色のある学校づくりを進めるために、財政的支援を行う意義は大きい。校長のリーダーシップを基に、学校教育目標の具現化や児童生徒の夢や生きる力を育むために、専門家を招いての特別授業や地域活動など、本事業を有効に活用していただきたい。</p> <p>ただし、単なる事業の繰り返しとならないように、常に改善を図り成果を確認把握しながら進めていくべきである。また、保護者に対しても理解していただけるよう報告に努めていただきたい。</p>		

個別事業 19

事業名	教育支援センター運営事業	担当課	教育指導課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額	
	10,971千円	10,017千円	
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>本市の不登校児童生徒数は、平成26年度の調査では、小学校で32人（不登校率0.43%）、中学校で107人（不登校率3.05%）となっている。そのような不登校児童生徒及び保護者からの相談への対応、不登校児童生徒への適応指導を行う等、学校復帰を支援するため、適応指導教室『ふれあいる一む21』を開設している。</p> <p>具体的支援としては、個別学習指導、集団活動、指導員との面接、遠足、体育館活動、調理実習、音楽教室、クリスマス会、保護者面談、担任と指導員の連絡会、不登校に係る懇談会など、さまざまな刺激を児童生徒に与えることで、通所から学校へ通うことができるように支援を行っている。</p>		
評価指標①	指導員数	7人（H25年度 7人）	
評価指標②	通所人数	25人（H25年度 24人）	
評価結果及び 今後の方向性	<p>不登校の原因は様々であり、保護者や家庭環境に問題があるケースも多く、現場である学校の努力にも限界がある。また、不登校児童生徒が増加している中、学校復帰を支援する適応指導教室「ふれあいる一む21」は子どもや保護者にとって心強く重要な存在である。</p> <p>学校復帰を目指す子どもたちに工夫した支援を行うことは、時間も手間もかかり成果が見えにくいかもしれないが、保護者・学校・教育支援センターが連携を密に行い、一人でも多くの不登校児童生徒が登校に結びつくよう、継続的な支援をお願いしたい。</p>		

個別事業 20

事業名	教育センター運営事業	担当課	教育指導課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額	
	49,386千円	38,933千円	
27年度予算額 (参考)	39,267千円		
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>成田市の教育の充実と振興を図るために、</p> <p>① 教育関係職員の研修</p> <p>② 授業の支援</p> <p>③ 教育資料、教材の収集</p> <p>④ 就学相談、教育相談 等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員研修事業実施回数 37回 のべ参加人数 1,344人</li> <li>・学校支援ボランティアの活用延べ 2,002人</li> <li>・ヘルプデスク（パソコンのトラブルへの対応、ホームページ作成の支援、学習用ソフト活用の支援等）の相談・訪問 相談37件・訪問102件</li> <li>・就学相談件数のべ 217件</li> <li>・教育相談件数のべ 247件</li> <li>・特別支援教育巡回指導員訪問 605件</li> </ul>		
評価指標①	研修実施回数	37回（H25年度 36回）	
評価指標②	研修参加者数	1,344人（H25年度 1,318人）	
評価結果及び 今後の方向性	<p>教職員の資質向上は大変重要な課題であり、研修や授業の支援、教育資料・教材の収集など、教育センターの担う役割は非常に大きく重要な事業である。</p> <p>子どもたちの学力向上には、授業の質の向上が欠かせない。指導主事が現場である学校に訪問し、直接授業支援を行い指導する機会をさらに増やす取り組みを行い、指導主事の活躍する場が増えることを期待したい。</p> <p>特に情報化の急速な発展に伴うICTの活用については、専門家の指導や出前研修を行うなどの工夫を行い、効果的な取組をお願いしたい。</p> <p>また、障がいのある児童生徒への対応においても、引き続き教職員・保護者への支援を一層図っていただきたい。</p> <p>なお、保護者に教員も学び続けている実態や業務を理解していただくことで、学校と家庭が連携し、さらなる子どもたちの学力向上や育成につながるのではないか。</p>		

個別事業 2 1

事業名	問題を抱える子ども等の自立支援事業	担当課	教育指導課
事業費	25 年度決算額 (参考)	26 年度決算額	
	3,761 千円	5,408 千円	
27 年度予算額 (参考)	6,557 千円		
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>小学校でも性格・身体や不登校、対人関係の悩みなど多くの課題をもつ児童が増えてきている。中学校では、県からスクールカウンセラーが配置している。しかし、小学校では、教育相談を行えるスクールカウンセラーが派遣されていない。そこで、さまざまな課題をもつ児童や子育てに悩む保護者に対して、拠点となる小学校 12 校に教育相談員を配置して相談活動を行った。</p> <p>【拠点校】 成田小, 三里塚小, 久住小, 向台小, 加良部小, 吾妻小, 玉造小, 公津の杜小, 平成小, 津富浦小, 川上小, 下総小</p> <p>【延べ相談件数】 延べ相談件数 4,531 件</p> <p>【主たる相談事例】 性格や身体, 不登校, 対人関係に関する事など</p> <p>【相談時間・日数】 1 校週当たり 2 回 (1 回 4 時間), 年間 70 回</p>		
評価指標①	拠点校数	12 校 (H25 年度 8 校)	
評価指標②	延べ相談件数	4,531 件 (H25 年度 4,172 件)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>以前は中学校で発生した問題が、今では小学校でも普通に起きているようであり、小学校における相談件数は年々増えてきている。そのような現状からも、専門性と経験を持った教育相談員の配置は必要不可欠である。また、必要に応じて教育相談員と学校との連携を密にし、協力して問題解決にあたっていたいただきたい。なお、拠点校数が 4 校増えたことは評価できる。</p> <p>相談内容も複雑になっているため教育相談員の存在は、教職員や保護者にとっても心強い存在である。今後も事業の拡充が望まれる。</p>		

個別事業 2 2

事業名	特別支援教育支援員配置事業	担当課	教育指導課
事業費	25 年度決算額 (参考)	26 年度決算額	
	46,306 千円	57,824 千円	
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>学校教育法の改正により、平成 19 年 4 月からは小中学校等に在籍する教育上特別な支援を必要とする児童生徒等に対して、障がいによる困難を克服するための教育を行うことが明確に位置付けられた。文部科学省からも特別支援教育支援員の配置充実が求められている。</p> <p>通常学級にいる障がいのある児童生徒に対して、その障がいの状況に応じて、学習の個別支援、移動や排泄などの学校教育活動上の日常生活の介助や情緒の安定、安全の確保等に直接対応するため、21 人の特別支援教育支援員を 21 校に配置し、支援を行った。</p> <p>小学校：19 校に対して 19 人 中学校：2 校に対して 2 人</p>		
評価指標①	支援員配置校数	21 校 (H25 年度 16 校)	
評価指標②	支援児童生徒数	601 人 (H25 年度 443 人)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>通常の学級に在籍する障がいのある児童生徒の支援を充実させるため、支援員配置校数を昨年度より 5 校多く配置できたことに対し評価したい。</p> <p>平成 28 年 4 月から施行される「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」では、学校についても合理的配慮の提供が具体的な法的義務となるため、今後とも支援が必要な児童生徒一人一人に対するきめ細やかな対応を継続し、各学校にあった適切な支援を行うとともに、保護者や教職員の理解と指導にも努めていきたい。</p>		

個別事業 2 3

事業名	学校給食事業		担当課	学校給食センター
事業費	25 年度決算額 (参考)	26 年度決算額		27 年度予算額 (参考)
	990, 532 千円	1, 076, 813 千円		1, 112, 500 千円
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>栄養バランスのとれた食事を提供することにより、成長期にある児童・生徒の健康の増進、体位の向上を図るとともに、望ましい食習慣を身につけるため、市内小中学校 35 校及び幼稚園 1 園に給食を実施した。また、各学校における食に関する指導と家庭教育学級において、栄養士が児童生徒及び保護者に対し、正しい食事のあり方や家庭における子どもの食生活の指導を行った。</p> <p>年間給食日数：195 日</p>			
評価指標①	年間給食日数	195 日 (H25 年度 194 日)		
評価指標②	年間給食数	2, 211, 942 食 (H25 年度 2, 173, 944 食)		
評価結果及び 今後の方向性	<p>成長期にある児童生徒にバランスと栄養のとれた食事を提供することは、食育の推進においても非常に重要なことである。引き続き、食物アレルギーに対応した給食を提供するとともに、栄養指導や地元産の食材を活用した食育の推進にも期待したい。</p> <p>栄養士が各学級で行う正しい食事のあり方や、食育の指導、家庭での食生活の指導は大変好評である。今後も引き続き実施していただきたい。また、児童生徒の食べ方や、食べる姿勢などについては、もう少し力を入れて指導していただきたい。</p> <p>給食費の未納者への対応については、戸別訪問や児童手当からの引き落としなどの対策により効果が上がっているようだが、保護者の不公平感を抱かせないためにも、引き続き努力を続けていただきたい。</p>			

個別事業 2 4

事業名	学校給食施設整備事業	担当課	学校給食センター
事業費	25 年度決算額 (参考)	26 年度決算額	
	759, 220 千円	74, 693 千円	
27 年度予算額 (参考)	789, 418 千円		
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>平成 22 年度策定の学校給食施設整備実施計画に基づき、平成 28 年 4 月運用開始予定の公津の杜小学校学校給食共同調理場の建設工事を行った。</p> <p>また給食施設整備を予定している一部の学校において、急激な児童数の増加による校舎の増築等により、当初の計画での整備が困難となったため、学校給食施設整備実施計画変更計画を策定した。</p> <p><b>【公津の杜小学校学校給食共同調理場施設概要】</b></p> <p>構 造：鉄骨造地上 2 階建</p> <p>建築面積：1466.92 m<sup>2</sup></p> <p>機 能：調理能力最大 1500 食</p> <p>そ の 他：特別調理室（アレルギー対応食を調理する部屋）設置</p>		
評価指標①	施設整備箇所数	2 箇所 (H25 年度 1 箇所)	
評価指標②	事業進捗率（施設整備率）	20% (H25 年度 16.7%)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>給食調理場をセンター方式から、給食調理施設のある学校で給食の調理を行い、調理施設のない学校へ給食を配送する親子方式を導入すれば、温かい給食の提供、きめ細かいアレルギー食の対応が可能となることから、できるだけ早期の全校整備を図っていただきたい。</p> <p>また、当初の計画から現状に合わせた計画に変更したとのことだが、新たな計画の下、整備済みの学校と未整備の学校とのバランスも考えた整備をお願いしたい。</p>		



個別事業 2 5

事業名	成人式開催事業		担当課	生涯学習課
事業費	25 年度決算額 (参考)	26 年度決算額		27 年度予算額 (参考)
	12,251 千円	7,333 千円		8,057 千円
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>成田市在住の新成人及び市内中学校出身で市外在住の新成人を対象に成人式を開催した。</p> <p>平成 27 年成人式は、成田国際空港第 2 旅客ターミナルビル前中央広場に特設会場を設営し、式典と記念行事を実施した。</p> <p>公募及び恩師から推薦された新成人によって組織した「成人式実行委員会」が、企画・運営を行った。(実行委員会による企画・運営は、平成 3 年から実施)</p> <p><b>【平成 27 年成人式】</b></p> <p>開催日：平成 27 年 1 月 11 日 (日)</p> <p>会 場：成田国際空港第 2 旅客ターミナルビル前中央広場</p> <p>式 典：市長及び来賓等の祝辞・新成人の代表者によるはたちの意見発表</p> <p>記念事業として、吉木りさの「新成人へのメッセージ」を実施</p> <p>※記念誌「成田のはたち」を発行した。</p>			
評価指標①	成人式出席者数	954 人 (H25 年度 989 人)		
評価指標②	成人式出席率	66.8% (H25 年度 66.0%)		
評価結果及び今後の方向性	<p>成田国際空港において成人式を開催することは、天候や寒さ対策などの課題もあるが、本市の特色を活かした式典である。また、新成人が実行委員会を組織し企画する成人式は思い出に残るものとなっている。</p> <p>参加した新成人一人一人が成人式の企画に参画したという、より一層実感が持てるような工夫を行うとともに、選挙権が 18 歳以上となることから、今後民法などの関係する法令の改正や他自治体の動向を注視し、方向性についても検討していただきたい。</p>			

個別事業 26

事業名	青少年健全育成事業	担当課	生涯学習課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額	
	11,731千円	9,442千円	
27年度予算額 (参考)	12,367千円		
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>社会教育関係団体のうち青少年教育に関する団体（青少年育成市民会議、青少年相談員連絡協議会、青少年の輪を育てる会、子ども会連絡会、映画サークルつばさ、ボーイスカウト）に補助金を交付することにより、団体の活動を支援する。市内小学5・6年生を対象としたジュニアリーダー養成講座（全5回）とジュニアリーダー養成研修会を実施した。</p> <p>【平成26年度】</p> <p>青少年育成市民会議・青少年健全育成協議会</p> <p>青少年音楽祭 参加者 21校（小学校19 中学校2）参加児童生徒：1,049人</p> <p>青少年相談員連絡協議会</p> <p>オールナイトハイク 34チーム（計313人）</p> <p>青少年交流綱引き大会 86チーム（計1,410人）</p> <p>青少年の輪を育てる会</p> <p>高校生・勤労青少年スポーツ大会 12チーム（117人）</p> <p>成田市子ども会連絡会</p> <p>地引き網体験 90人（市子ども会連絡会会員）</p> <p>防災とエネルギーについて考える 20人（ ” ” ）</p> <p>子ども会まつり 3,500人（国際市民フェスティバルと同時開催）</p> <p>ジュニアリーダースクラブ 19人（市子ども会主催・共催各事業に協力）</p> <p>ジュニアリーダー養成講座 開催回数（年5回）6月～12月 参加者数：23人</p> <p>内容：リーダーの役割、レクリエーション、安全講習、子ども会活動支援、野外炊さん、奉仕活動</p> <p>ジュニアリーダー養成研修会 3月7日（土） 参加人数：78人（小学4～6年生）</p> <p>会場：沖ノ島国定公園（海辺の自然体験）</p>		
評価指標①	総実施回数	9回（H25年度 9回）	
評価指標②	延べ参加児童生徒数	3,119人（H25年度 2,801人）	
評価結果及び今後の方向性	<p>地域の教育力が低下していると言われている中、子どもたちが大人とふれあったり友達と協力したりすることで、人間関係を学びリーダーシップが生まれ、さらには地域の大人にとってもやりがいのある事業である。</p> <p>各団体が地域に根差した活動を行っていることは評価できるが、地域によっては差があると感じる。また、成果の見えにくい事業も多く、その原因の一つとして事業報告のあり方が考えられる。</p> <p>市から支出した補助金などに対して、事業ごとに費用対効果を検証するとともに、見直す必要があるものについては見直していくなど、改善や指導をしっかりと行う必要がある。また、社会教育事業については補助事業が多いが、本来市が行うべき性格の事業については、委託事業として行うべきである。</p>		

個別事業 27

事業名	放課後子ども教室推進事業		担当課	生涯学習課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額		27年度予算額 (参考)
	2,563千円	2,823千円		4,474千円
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>放課後や週末等に小学校の空き教室や校庭等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを実施するものである。これにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。</p> <p>実施日：豊住小・遠山小 毎週木曜日  八生小 隔週木曜日  下総みどり学園 隔週月曜日  美郷台小 毎月第3土曜日</p> <p>平成26年度実施状況・・・豊住小 参加延べ人数858人、教室開催39回（22人/回）  遠山小 参加延べ人数942人、教室開催29回（32人/回）  八生小 参加延べ人数666人 教室開催16回（42人/回）  下総みどり学園参加延べ人数477人、教室開催10回（47人/回）  美郷台小 参加延べ人数110人、教室開催10回（11人/回）</p> <p>豊住小では絵手紙教室、おやつ作り、順大生と遊ぼう等を実施。遠山小では走り方教室や生け花教室、工作、八生小ではスポーツ吹き矢、貝探し、生け花教室、スポーツゲーム、下総みどり学園では、シャボン玉遊び、スライム作り、空飛ぶ夢ヒコーキ教室、美郷台小では鈴虫教室や茶道体験、手話教室、ジャズダンス教室等を実施した。</p>			
評価指標①	活動拠点数	5校（H25年度4校）		
評価指標②	延べ参加児童数	3,053人（H25年度1,695人）		
評価指標③	教室開催回数	104回（H25年度92回）		
評価結果及び今後の方向性	<p>少子高齢化や核家族などで、限られた人間関係の中で育ってしまう子どもたちが多く、大人になっても人間関係が上手に築けずに悩んでしまうことがある。地域において年齢の異なった子ども同士や大人などの、様々な人たちと活動を通して関わることは人間関係を上手に構築していく能力を養い、成長していくうえで極めて有効な事業である。</p> <p>今後も、コーディネーターの育成や人材の確保などを図り、さらなる事業の充実と民間活力により活動範囲を広げていく施策も研究されたい。</p>			

#### その他の事業

- ・ 教育資金利子補給事業（教育総務課）
- ・ 小中学校校内 LAN 整備事業（教育総務課）
- ・ 小中学校施設維持整備事業（学校施設課）
- ・ バリアフリー整備事業（学校施設課）
- ・ 児童生徒遠距離通学費補助事業（教育指導課）
- ・ 小学校スクールバス運行事業（教育指導課）
- ・ 特別支援学級児童生徒支援事業（教育指導課）
- ・ 小中学校体育活動事業（教育指導課）
- ・ 高等学校等開放講座開催事業（生涯学習課）
- ・ 子どもの居場所づくり推進事業（生涯学習課）

ほか

### 柱3 生涯を通して学びスポーツができる環境づくりを推進する

#### 施策の方向

- ・ 生涯学習内容の充実
- ・ 文化芸術活動の推進
- ・ 生涯学習活動に関する支援
- ・ 生涯学習施設の充実
- ・ 生涯学習の推進体制づくり
- ・ 地域に根ざしたスポーツ活動の促進
- ・ スポーツを通じた交流の促進
- ・ スポーツ活動の基盤の充実

総合評価	A 目標を達成できた、または目標達成に向けて順調に進んでいる
評価所見	<p>本格的な高齢化社会を迎え、社会人大学や生涯大学院などの年齢や専門性に応じた様々な学習メニューが用意され、仲間づくりや生きがいがづくりに大きく貢献している。今後も市民ニーズに応じた見直しを図りながら、生涯にわたり学び続けるまちづくりに寄与していただきたい。</p> <p>また、学習成果を活かすことは、学習意欲の向上にもつながる。学習成果が発揮できるような機会の創出を図るとともに、地域やまちづくりに貢献できる人材育成を積極的に推進していただきたい。</p> <p>図書館や公民館など、市民が身近に利用できる施設は利便性が高まり、サービスの向上がみられる。引き続き、利用者の声を聴き、適切な維持管理、計画的な改修に努めていただきたい。</p> <p>生涯スポーツ分野について、スポーツ広場、野球場、パークゴルフ場など、市民がスポーツを楽しむ環境が充実しているものの、スポーツ広場の利用については、公平性の確保に問題が生じている施設もある。今後も、市民がスポーツ施設を快適に利用できるよう、適切な運営管理を行っていくことが必要である。</p> <p>市民がスポーツ施設を快適に利用できるようにするためには、管理者側の適切な運営管理と利用者側のルールの遵守が不可欠であることから、市としても管理を委託先任せにせず、必要に応じたチェックを行い統一したルール作りが必要である。</p> <p>また、スポーツ団体の事務局運営についても、体育協会事務局の分離独立を参考とし、他の団体においても検討を進めていただきたい。</p>

	常に市民目線に立ち、現状の課題に対し見直しを図り、市民が身近に生涯学習やスポーツ活動に参加できるよう、引き続き事業を推進していただきたい。
--	---

- 評価指標：A 目標を達成できた、または目標達成に向けて順調に進んでいる
- B 概ね目標を達成できた、または目標達成に向けて進んでいる
- C 目標どおり進んでいるが、一部達成できなかった
- D 目標の達成ができなかった、または目標の達成は困難である

個別事業 28

事業名	生涯大学校管理運営事業		担当課	生涯学習課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額		27年度予算額 (参考)
	8,102 千円	8,875 千円		9,174 千円
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>社会環境の変化に適応できるよう幅広い分野にわたる学習の機会を提供し、高齢者の生きがいを促進するとともに、学習成果を地域社会の様々な活動の中で生かせるまちづくりを目指し、60歳以上の市民を対象とした3年制の生涯大学院の運営を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教養講座（必須）25回×3学年（計6クラス）（歴史・健康・環境等）</li> <li>・ 専門講座（選択）15回×6講座（園芸・陶芸・書道・油絵・音楽・体操）</li> <li>・ その他課外活動（学園祭・グラウンドゴルフ・広報紙の編集等）</li> </ul>			
評価指標①	当該年度入学者数	92人（H25年度 95人）		
評価指標②	当該年度卒業生数	76人（H25年度 57人）		
評価結果及び 今後の方向性	<p>本事業は、生涯にわたって学び続けようという人にとっての理想的な学びの場であり、60歳以上の市民が誰でも参加できることは、仲間づくり、生きがいに大きく貢献している事業である。</p> <p>受講者のニーズに応じた学習メニューを充実させ、生涯学習の楽しみと喜びが共有できるよう、引き続き事業の推進を図りたい。</p> <p>なお、受益者負担の観点からも、一部有料化の検討をしてはどうか。</p>			

個別事業 29

事業名	明治大学・成田社会人大学運営事業	担当課	生涯学習課																
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額																	
	5,083 千円	5,143 千円																	
27年度予算額 (参考)	5,822 千円																		
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>高校生以上の市民を対象に、明治大学と連携し大学の講師陣・講座運営等の協力を得て、平成9年度より社会人大学を実施している。</p> <p>国際的な諸問題などを学ぶ「国際社会課程」、国内・地域の諸問題などを学ぶ「地域社会課程」、農作物や環境問題などを学ぶ「緑地環境課程」の3講座で、年間10回程度の講義を行った。</p> <p>平成26年度実施状況</p> <table border="1"> <tr> <td>受講者数</td> <td>245 人</td> <td>修了者数</td> <td>218 人</td> </tr> <tr> <td>国際社会課程</td> <td>98 人</td> <td>〃</td> <td>85 人</td> </tr> <tr> <td>地域社会課程</td> <td>108 人</td> <td>〃</td> <td>94 人</td> </tr> <tr> <td>緑地環境課程</td> <td>39 人</td> <td>〃</td> <td>39 人</td> </tr> </table>			受講者数	245 人	修了者数	218 人	国際社会課程	98 人	〃	85 人	地域社会課程	108 人	〃	94 人	緑地環境課程	39 人	〃	39 人
受講者数	245 人	修了者数	218 人																
国際社会課程	98 人	〃	85 人																
地域社会課程	108 人	〃	94 人																
緑地環境課程	39 人	〃	39 人																
評価指標①	講座数	30 講座 (H25 年度 30 講座)																	
評価指標②	受講生数	245 人 (H25 年度 237 人)																	
評価結果及び 今後の方向性	<p>毎年多くの受講者があり、主に高齢者の貴重な学びの場となっている。来年度で20年目を迎え、定着している事業ではあるが、若い世代にも参加しやすい環境づくりや、課程の見直しなど、この機会に大幅な改革の時期に来ているのでは。</p> <p>明治大学の協力を得て、長期に渡り継続してきた事業であるので、今まで蓄積したノウハウを活かし、地域やまちづくりに貢献できる人材の育成を積極的に進めるよう今後の展開に期待したい。</p>																		



個別事業 30

事業名	国際文化会館管理運営事業	担当課	生涯学習課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額	
	79,727千円	81,325千円	
27年度予算額 (参考)	80,311千円		
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>教育及び文化の発展、並びに市民の福祉の向上に資するため、成田国際文化会館を設置し、その管理運営を委託している。</p> <p>また、成田国際文化会館を拠点に実施する「青少年の交流・体験活動の促進に資する事業（ヤングスペースなりた）」に対し補助を行い、子どもたちにとって魅力ある体験的なメニューを提供した。</p> <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ヤングスペースなりた</li> <li>陶芸、油絵、水彩画、絵手紙、料理教室、木工</li> <li>アドベンチャーキャンプ、チャレンジエンジニア、カヌー体験、理科教室</li> </ul>		
評価指標①	国際文化会館利用者数	180,587人 (H25年度 183,234人)	
評価指標②	国際文化会館事業実施数	31回 (H25年度 26回)	
評価指標③	ヤングスペースなりた実施数	10回 (H25年度 8回)	
評価指標④	ヤングスペースなりた参加者数	316人 (H25年度 347人)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>教育及び文化の発展ならびに市民の福祉の向上に資するための、文化発信の拠点として本事業を引き続き継続し、今後も適正な管理運営を行う必要がある。また、利用者アンケートの実施などを行い、指定管理者の管理運営を客観的に評価するとともに、利用者の意見を把握し、魅力ある自主文化事業を実施するよう期待したい。</p> <p>青少年の放課後・休日における交流体験活動を支援する「ヤングスペースなりた」は、仲間と一緒に様々な体験活動を通して、達成感の得ることが出来る魅力ある事業であるが、参加者数の減少も見られることから、さらなる工夫が望まれる。</p>		

個別事業 3 1

事業名	文化芸術センター管理運営事業	担当課	生涯学習課
事業費	25 年度決算額 (参考)	26 年度決算額	
	千円	98,640 千円	27 年度予算額 (参考) 221,039 千円
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>中心市街地に立地するメリットを最大限に発揮し、その機能を充実強化し、若者を引き寄せ、シンボリックな施設となり、市民の文化向上と地域文化の創造・振興を図る事のできるホール・ギャラリーの整備に努めた。</p> <p>【平成 26 年度】開館準備。平成 27 年 2 月に市街地整備課より引き渡し。施設運営のために、条例の整備や利用案内の作成、初度備品の購入等を進めた。</p> <p>○購入備品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台緞帳、ピアノ、所作台、舞台大道具、ホール照明機具、展示台 各部屋の什器等</li> </ul>		
評価指標①			
評価指標②			
評価結果及び 今後の方向性	<p>市民の文化芸術の向上と、文化芸術の発信拠点さらには文化振興の場として、駅前という好立地の場所に、ホール、ギャラリーを整備し、最新設備を備えた「成田市文化芸術センター」がオープンした意義は大きい。それらのメリットを最大限に発揮し、市民活動の活性化や文化芸術の発信・振興拠点として今後の活用に期待したい。</p> <p>施設の管理運営にあたっては、貸し館に終わってしまわないよう、魅力ある自主事業や民間の活用なども検討されたい。</p>		

個別事業 3 2

事業名	健康づくり運動「健康ちば21」推進事業	担当課	生涯スポーツ課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額	
	1,608千円	2,196千円	
27年度予算額 (参考)	1,998千円		
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>スポーツを通じた健康づくり、体力づくりの契機となるよう、市民相互の親睦を目的としたイベントとして成田スポーツフェスティバルを開催した。</p> <p>また、健康ちば推進員連絡協議会の行う健康づくり事業に対して助成を行った。</p> <p>26年度事業は関東デイウォーキング、体力測定などを実施し、市民の健康づくりや体力づくりに寄与した。</p>		
評価指標①	事業数	8事業 (H25年度9事業)	
評価指標②	事業参加者数	3,440人 (H25年度2,370人)	
評価結果及び今後の方向性	<p>参加単位を限定しない自由参加形式のスポーツフェスティバルも、回を重ねるごとに参加者数も増え、新たな市民スポーツの祭典として成長し、定着してきている。</p> <p>健康ちば推進員連絡協議会で行っている関東デイウォーキングや体力測定などはもっと市民への周知が必要ではないか。</p> <p>今後も、関係機関と協力しながら、家庭、地域、職場での健康づくりや体力づくりのあり方を検討して欲しい。</p> <p>また、スポーツフェスティバルなど実行委員会を組織し、市が主体的となり事業の運営を行っているイベントがいくつかあるが、スポーツ団体の組織力を育成した上で、それらの団体や民間への委託へ移行することも必要ではないか。</p>		

個別事業 3 3

事業名	スポーツ団体育成事業		担当課	生涯スポーツ課								
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額		27年度予算額 (参考)								
	21,130千円	24,118千円		28,394千円								
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>市民の幅広いスポーツ・レクリエーション活動への参加機会の拡大を目指し、各種事業の中心的活動を担う成田市体育協会、成田市スポーツ少年団、成田市レクリエーション協会の育成・強化を図るため、指導及び助成を行った。</p> <p>なお、成田市体育協会については、平成26年6月に事務局が生涯スポーツ課より独立した。(平成27年4月には法人化し一般社団法人成田市体育協会となる)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>団 体</th> <th>加盟数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般社団法人成田市体育協会</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>成田市スポーツ少年団</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>成田市レクリエーション協会</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>				団 体	加盟数	一般社団法人成田市体育協会	52	成田市スポーツ少年団	37	成田市レクリエーション協会	8
団 体	加盟数											
一般社団法人成田市体育協会	52											
成田市スポーツ少年団	37											
成田市レクリエーション協会	8											
評価指標①	事業数	507事業 (H25年度 429事業)										
評価指標②	参加者数	49,100人 (H25年度 48,618人)										
評価結果及び 今後の方向性	<p>体育協会、スポーツ少年団、レクリエーション協会の育成・強化を図るため、市による助成を行い支援することは、市民のスポーツ・レクリエーションの参加と活性化につながるので引き続きお願いしたい。</p> <p>体育協会が事務局の分離独立に続き、一般社団法人と自立した道を歩み出したことは時代の流れに沿うもので、モデルケースとしてその成長発展を見守っていく必要があり、他の団体においても十分に検討すべきである。</p> <p>これらの団体が地域に根差し活動していることは評価できるが、市民に理解をしていただく必要がある。外部からの意見を聞くための取組と、成果についても報告するべきではないか。また、こうしたスポーツ団体の力を活かしていくためには、各種団体の事務局が一カ所にまとまったスポーツ会館のような施設検討を進めていただきたい。</p>											

個別事業 3 4

事業名	スポーツ広場等管理事業	担当課	生涯スポーツ課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額	
	31,695千円	30,445千円	
27年度予算額 (参考)	42,256千円		
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>市民が広くスポーツ・レクリエーション等を気軽に楽しめるスポーツ広場は、各地区が指定管理者となり、管理・運営を行っている。</p> <p>また、北羽鳥多目的広場の管理については、生涯スポーツ課が管理・運営を行っている。</p> <p><b>【地区スポーツ広場】</b></p> <p>遠山スポーツ広場（多目的広場・テニスコート／管理：遠山地区体育協会）              八生第1スポーツ広場（多目的広場／管理：八生地区青少年健全育成協議会）              八生第2スポーツ広場（テニスコート／管理：八生地区青少年健全育成協議会）              中郷スポーツ広場（多目的広場・テニスコート／管理：中郷地区青少年健全育成協議会）              公津スポーツ広場（多目的広場／管理：公津地区青少年健全育成協議会）              久住第1スポーツ広場（多目的広場／管理：久住地区青少年健全育成会）              久住第2スポーツ広場（多目的広場／管理：小泉青少年健全育成会）              豊住第1スポーツ広場（野球場／管理：豊住地区体育協会）              豊住第2スポーツ広場（パークゴルフ場／管理：竜台区自治会）              ニュータウンスポーツ広場（野球場・多目的広場／管理：成田ニュータウンスポーツ連盟）</p>		
評価指標①	地区スポーツ広場利用者数	50,739人（H25年度 39,829人）	
評価指標②	北羽鳥多目的広場利用者数	16,104人（H25年度 12,236人）	
評価結果及び 今後の方向性	<p>各地区のスポーツ広場は当該地区の団体等が指定管理者となっているが、指定管理者の意向で利用機会の公平性が担保されていない部分が見られる。ルールを統一化し、基本的な運営マニュアルのようなものを教育委員会が示し、市民が公平に利用できるようにするためにも、一層の指導と対処が望まれる。</p> <p>また、利用者も昨年度より大幅に増加し、多くの市民が地区スポーツ広場で活動しているので、常に利用者の安全性、利便性に努め、円滑で適正な管理運営を引き続き行っていただきたい。</p>		

個別事業 35

事業名	運動公園等整備事業		担当課	生涯スポーツ課
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額		27年度予算額 (参考)
	202,522 千円	111,935 千円		463,679 千円
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>市民生活に潤いを与えるスポーツ拠点である中台運動公園，大谷津運動公園，下総運動公園の整備を行った。</p> <p>中台運動公園内の老朽化した電気幹線の改修工事を行うとともに，体育館アリーナ床の改修工事の実設計を行った。</p> <p>また，体育館の空調設備について，既存設備（事務室，会議室，ロビー）改修に加え，新たに柔道場，剣道場，トレーニング室，卓球場，2階コンコースへ設置工事を行うため，仮設事務所を借り上げ，備品等の移設を行った。</p>			
評価指標①	運動公園数	3 公園（H25 年度 3 公園）		
評価指標②	修繕等件数	6 件（H25 年度 3 件）		
評価結果及び 今後の方向性	<p>本市のスポーツ施設の多くが築 30 年を経過し、多くの施設が大規模改修の必要な時期に来ているのではないかと懸念されている。市全体の長期的なビジョンを検討し、計画的にスポーツ施設の改修を行うようすべきである。</p> <p>また、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた、スポーツツーリズムの推進のため、キャンプ地等に利用できるような施設整備、改修について検討していただきたい。</p> <p>なお、下総運動公園の施設の充実や指定管理の導入についても、早期に実現できるよう期待する。</p>			

個別事業 36

事業名	公民館講座教室等開催事業		担当課	公民館
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額		27年度予算額 (参考)
	2,750 千円	3,054 千円		3,018 千円
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>公民館 13 館で地域の特徴を考慮しながら、子どもから高齢者までを対象とし、生涯学習のねらいを達成すべく講座・教室、体験学習等を開催した。</p> <p>事業数 64 事業 講座・教室回数 342 回 定員数 2,257 人 受講者数 3,570 人(延べ6,564 人)</p> <p>○事業の主なもの 子ども体験学習セミナー(小学生低学年・高学年)、セカンドライフ支援セミナー、歴史ウォーキング、親子えびがに釣り教室、1 歳児親子教室、生きがいセミナー、夏休み親子教室、植木剪定教室、男の料理教室、ムーブメント教室、将棋入門教室、伊能歌舞伎鑑賞教室など</p>			
評価指標①	講座・教室開催回数		342 回 (H25 年度 357 回)	
評価指標②	受講者数		3,570 人 (H25 年度 3,694 人)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>公民館は地域住民の拠り所として幼児から高齢者までさまざまな世代を対象とし、そのニーズに応じた事業が展開されている。ただし、人気のある講座などはプログラム全体がマンネリ化しないよう気を付けた内容に努めていただきたい。</p> <p>身近な地域での仲間づくりや地域の繋がりをさらに深めるためにも、利用者の声を聴き、参加者を増やす工夫を行いながら次の展開を考え、より一層事業の充実を図っていただきたい。</p>			

個別事業 3 7

事業名	公民館施設維持管理事業		担当課	公民館
事業費	25 年度決算額 (参考)	26 年度決算額		27 年度予算額 (参考)
	199,072 千円	176,605 千円		176,483 千円
評価年度 (H26 年度) 事業内容	<p>公民館 13 館の利用者の安全・快適を目指して、良好な維持管理に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 非常勤職員賃金 42 人分 42,200 千円</li> <li>・ 修繕工事 44 件 4,942 千円 成田公民館女子トイレ洋式化工事 大栄公民館図書室空調機修繕など</li> <li>・ 委託 28 件 74,561 千円 公民館管理業務委託(シルバー人材センター) 機械警備委託、空調設備保守管理委託、清掃委託、自家用電気工作物保守点検委託、消防用設備保守点検委託、浄化槽維持管理委託、エレベーター保守点検委託、草刈り及び植木伐採委託、舞台照明設備保守点検委託、ごみ収集委託、自動ドア保守点検委託、特殊建物定期調査委託など</li> </ul>			
評価指標①	開館日数 (13 館合計)		3,869 日 (H25 年度 3,812 日)	
評価指標②	来館者数 (13 館合計)		294,967 人 (H25 年度 299,002 人)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>平成 26 年度は公民館の一部で土足化の施行を行ったり、窓口担当者の接客研修や、トイレの洋式化を順次導入したりするなど、サービスの向上がみられる。市民にとって安全で利用しやすい施設として、また、各公民館の特色を活かした施設の管理運営を引き続き進めていきたい。</p> <p>なお、図書館を併設している公民館において、図書司書の不在など図書室利用の不便さがあるので、図書室の利用者が増える工夫をお願いしたい。</p>			



個別事業 38

事業名	公民館大規模改修事業		担当課	公民館
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額		27年度予算額 (参考)
	29,761千円	34,993千円		9,500千円
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>公民館は13館すべてが建設後20年以上経過し、うち半数以上が30年以上経過しており老朽化が進行している。大規模改修は、隔年で実施している特殊建築物定期調査及び設備保守管理業者の報告を基に優先順位をつけ計画的に実施している。</p> <p>平成26年度は、久住公民館と加良部公民館の屋根・外壁等の改修工事を行った。</p> <p>○久住公民館</p> <p>委託料</p> <p>工事監理業務委託料 497千円</p> <p>工事請負費</p> <p>大規模改修工事 15,790千円</p> <p>○加良部公民館</p> <p>委託料</p> <p>工事監理業務委託料 1,101千円</p> <p>工事請負費</p> <p>大規模改修工事 17,605千円</p>			
評価指標	工事实施館数		2館 (H25年度 1館)	
評価結果及び今後の方向性	<p>公民館は多くの市民が利用する施設であるとともに、地域住民の身近な避難所であることから、安心安全を第一に考えるとともに、バリアフリー、耐久性などにも留意し計画的な整備をお願いしたい。</p> <p>また、大規模改修の工事实施にあたっては、工事期間を短縮したり、開館した状態で工事を行ったり工夫をして事業を展開していることから評価したい。引き続き、改修工事を実施する際は住民へ周知をはかるとともに、施設を閉館せずに工夫した方法で進めていただきたい。</p>			

個別事業 39

事業名	図書館事業		担当課	図書館
事業費	25年度決算額 (参考)	26年度決算額		27年度予算額 (参考)
	139,834千円	130,569千円		136,107千円
評価年度 (H26年度) 事業内容	<p>生涯学習の拠点として、社会情勢の変化や市民要求に対応した資料の収集を心がけ、図書貸出サービス、子どもの読書活動の推進、障がい者サービス、各種講座等を開催した。</p> <p>1. 開館日数 本館・公津の杜分館 開館日数 292日 公民館図書室等(14か所) // 277日</p> <p>2. 登録者数・蔵書点数 登録者数 41,159人 蔵書点数 1,000,167点</p> <p>3. 主な事業</p> <p>(1) おはなし会 土曜日のおはなし会、0・1歳、2・3歳向けのおはなし会、季節のおはなし会、学校訪問おはなし会(ボランティアの協力)</p> <p>(2) 各種講座等 児童講座、文学講座、市史講座、音訳協力者養成講座、絵本の読み聞かせ講座など</p>			
評価指標①	図書貸出点数	1,319,824点 (H25年度 1,320,586点)		
評価指標②	貸出利用者数	351,124人 (H25年度 344,482人)		
評価結果及び今後の方向性	<p>図書館は施設の整備やサービスにおいても充実しており、企画や各種講座なども工夫している。また、借りた本を本館や分館以外の近くの公民館でも返すことができるシステムは市民にとっても好評である。今後もインターネットを活用したサービスの向上や次世代の図書館を目指し、より質を高めた図書館になっていただきたい。</p> <p>公民館図書室においては、図書室の充実と蔵書数の増加や図書の入れ替えをこまめに行うなど、引き続きサービスの向上に努めていただきたい。</p>			

その他の事業

- ・ 青少年劇場開催事業（生涯学習課）
- ・ 文化芸術振興事業（生涯学習課）
- ・ 国際文化会館施設整備事業（生涯学習課）
- ・ 各種大会教室等の開催事業（生涯スポーツ課）
- ・ 運動公園等管理事業（生涯スポーツ課）
- ・ 公民館だより発行事業（公民館）
- ・ 公民館まつり事業（公民館）
- ・ 図書整備事業（図書館）
- ・ 視聴覚教育研修事業（図書館）

ほか